

めぐろ歴史資料館特別展

目黒の名工 千代鶴是秀×小宮又兵衛×高山一之

大正から昭和前期にかけての目黒川沿いは、工場地帯を中心に形成され、当時は、ものづくりの音の響くまちでした。工業化が進む中でも伝統的な技術を継承し、ひたむきにその姿勢を貫き、現在でも名工として語り継がれている技術者もいます。

本展では、目黒の名工である千代鶴是秀氏(大工道具鍛冶)と小宮又兵衛氏(蒔絵〈まきえ〉筆製作)に再注目し、その業績を紹介します。また、名工として平成30年に国の選定保存技術保持者に認定された、現在も区内で活躍中の高山一之氏も紹介します。



▲昭和の目黒川沿いの様子

時11月3日(祝)～12月11日(日)
9:30～17:00

※月曜日休館(祝日の場合は開館し、翌日休館)

会場めぐろ歴史資料館

(中目黒3-6-10、
☎3715-3571、☎3715-1325)



◀六分鎚大突鑿「神鑿」

千代鶴是秀 (ちよづる これひで)

(明治7年～昭和32年)

大工道具鍛冶(※1)の名工。大正9年、下渋谷から宿山(現在の目黒)へ転居し、工房「九三房」を構える。刀匠の家に生まれ、11歳で鍛冶修業に入り、時代の変容に合わせて大工道具鍛冶の道に進む。

刀匠から受け継いだ崇高な精神性を持ち、生み出された大工道具は、本来の消耗品としての道具にとどまらず、芸術の域に達している。大工道具鍛冶業界や大工・木工技術者など使用者の間では「不世出の鍛冶」と語り継がれている。

※1 金属を熱して打ちきたえて、道具を作ること

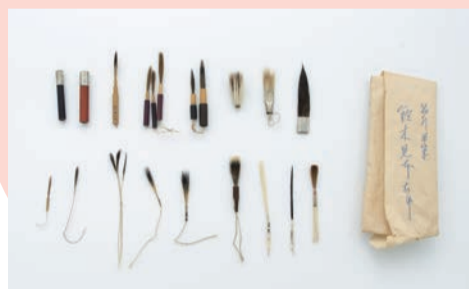
小宮又兵衛 (こみや またべい)

(明治8年～昭和34年)

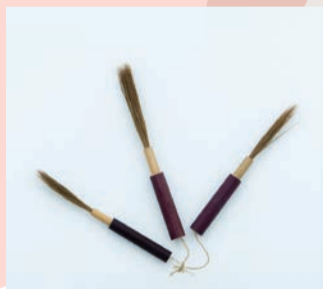
蒔絵(※2)筆製作の名工。終戦後、中目黒(現在の祐天寺2丁目)に工房を構える。12歳前後で父に師事し、亡くなるまで約75年、蒔絵筆製作に従事していた。昭和32年、国の「記録作成等の措置を講ずべき無形文化財」に認定される。

小宮が調製した、漆芸用具製作技術記録は東京国立博物館で所蔵され、現在では希少となった漆芸用具の重要な記録資料となっている。

※2 漆で絵や文字などを描き、金等の粉をかけて定着させる技法



▲「蒔絵筆製作道具一式」の一部



▲蒔絵筆見本

高山一之 (たかやま かずゆき)

(昭和15年から)

現在、区内で活躍中の刀装(鞘〈さや〉)※3製作修理の名工。昭和15年に生まれ、5歳の時に目黒区に転居。大学卒業後、鞘師であった父に師事。

宮内庁や有名社寺からの依頼で、国宝・重要文化財など刀剣の刀装の修理・復元、白鞘(※4)の制作を行ってきた。その名声は広く海外でも知られ、大英博物館やメトロポリタン美術館などの著名な博物館・美術館からも依頼を受けてきた。

平成30年国の選定保存技術「刀装(鞘)製作修理」保持者に認定される。令和2年旭日双光章を叙勲。

※3 刀剣類の刃の部分を守る筒

※4 白木で作る鞘



▲金豹文蒔絵漆塗合口大小刀拵

「目黒の名工 千代鶴是秀×小宮又兵衛×高山一之」記念講演会

関連事業

現在、刀装製作修理の名工として知られる高山一之氏と、千代鶴是秀研究の第一人者である土田昇氏の2人を迎え、講演会を開催します。また、当館所蔵の小宮又兵衛「蒔絵筆製作道具一式」について、当館学芸員が解説します。

時11月26日(土)13:00から

場めぐろ学校サポートセンター(中目黒3-6-10)

定40人(抽選)

申専用☎(コード①)、ハガキ・FAX(氏名〈ふりがな〉、住所、電話を記入)で、11月3日(必着)までに、めぐろ歴史資料館(〒153-0061中目黒3-6-10、☎3715-1325)へ



①